



例会日・毎週月曜日 12:30～13:30	創立・1980年5月19日	会長 上田 正宙
例会場・ホテルニューオータニ高岡	認証・1980年6月12日	幹事 長澤 貴士
	国内創立順位・1489	公共イメージ委員長 八塚 昌俊

第1997回 例会 2月 16日(月)

◇点 鐘

◇ソング “奉仕の理想”

◇ゲスト並びにピシターの紹介

ゲスト：NPO 法人アレッセ高岡
理事長 青木 由香 様

◇会長挨拶並びに報告

皆さんこんにちは。青木様、後ほどどうぞよろしく
お願い致します。

前回、2月3日の節分のお話
をしましたが、節分の時に
「柗鱒」という、柗の枝に
鱒の頭の焼いたものを付け、
玄関先に飾ると鬼がやっ



こないという風習が全国的にあります。皆様やってお
られますか？富山はあまりしないように思います。

「鱒の頭も信心から」ということわざもありますが、
これは、取るに足らないものでも大事にしている人にと
っては心の安定を保つのに大事だという意味合いと、も
う一つ、そのような迷信を妄信的に信じて意味がない
という、今は、そのように捉えられるようです。

鱒は、頭が腐りやすく、焼くともっとひどいにおい
がします。昔の人は、鬼は玄関からやってくると考えて
いました。神様も実は玄関からやって来ます。サンタク
ロースは煙突ですけど。日本人は、玄関から良いものも
悪いものも入ってくると考え、玄関に魔よけのものを置
きます。この時期になぜするかというと、鬼がにおいを
すぐ嫌がるからということと、柗はご存じの通りトゲ
トゲで、それを玄関に置くことで邪気を入れないという
意味があります。良いものも悪いものも入ってくる玄関
で、神様ならお迎えし、邪気なら止めるために、玄関先
に神棚を祀る家がありますが、そこに由来しています。

節目節目で、そのような行事をすることで家の安泰や
心の安定を保つという意味がありますので、昔の風習も
意味があるのかなと思います。

ちなみに柗の花言葉は「先見の明」です。とげとげで
すごく痛いんですが、老木になると、棘が取れるそう
です。年を取ると棘が無くなっていくという、そのような
人間になりたいなと思っています。

柗を見習って生きていこうと思います。

◇幹事報告

- 1) 次週2月23日(月)は、法定休日の為休会です。
- 2) 次回3月2日(月)例会は「インターアクト活動
報告」アイザ君の卓話です。よろしくお願いします。
- 3) 回覧：①会報NO.22(テーブル毎)
②2026-27年度のロータリー手帳の販売案内
1部880円(～2月25日迄)

◇ニコニコBOX報告

上田会長：青木さん、今日宜しくお願ひします。
野尻信晴君：友達が特殊詐欺にひっかかり、郵便局で
200万円振込むところを職員に助けられました。
やさしい老人が住みにくい世の中になりました。
【今年度ニコニコBOX累計額222,600円】



◇出席報告 出席者 18名 メイクアップ済 0名

名誉会員	会員数	本日の出席率	1/26例会 修正出席率
1名	32名	82.82 %	84.0 %

富山県は県立高校入試で一部の外国籍の生徒に対し問題の漢字にふりがなを振るといった特別措置を設けています。こういった特別措置は現在全国の都道府県や政令指定都市で行われていますが、この措置の内容の地域間格差が大きな問題になっています。特別枠の有無という問題もあります。富山県には特別枠は設けられていません。

例えば、大阪府では特別措置・特別枠両方ありますが、その内容をご覧のとおり、富山県と比べようもない状況です。ちなみに、無事高校に入学できた生徒たちの進学先を見ると、外国人の多くを私立高校が引き受けているということも数字からわかります。このことと、生徒の親である外国人労働者が置かれている不安定な労働環境・経済状況を合わせて、外国人生徒の中等教育について考える必要があると思います。



そんな中で、アレッセ高岡では、外国ルーツの子ども・若者たちの進学を後押ししようと、学習支援事業と教育情報支援事業を展開しています。学習支援教室は現在27名が在籍していて、ブラジル・パキスタンの子が多いです。今年度は14名が高校受験目指して勉強してきました。ですが、1名は私立一般入試を受けて不合格、3名は受験自体を断念しました。この4名はいずれも日本の中学校に在籍しない子たちでした。日本の中学校に入れてもらえない、日本の中学校を卒業する時に適切なサポートが受けられなかった子たちがいかに不利になるかを実感しています。

教育情報支援事業の方は、今年度県教委と共催で高校進学ガイダンスを実施するという新しい動きがありました。長年地域ボランティアでなんとか情報を届けようと奮闘してきましたが、県教委が主催することでガイダンスの実施自体の情報があまねく確実に届くということを実感しました。



2020年度より始めた、「市民性教育」も常にアップデートしています。これは、一方的な「外国人支援」から脱却し、多様な住民がともに地域を上げるために必要となる資質・能力を、外国ルーツの子どもたちだけでなく、日本人も、私たち支援者も育てていくための活動です。

2024年度には地元外国ルーツの若者たちが調査を行い、県知事に提言を行いました。この内容を実現すべく様々な形で動いています。

その一つが、JICA北陸との協働で進めている「共創の未来とやま」プロジェクトです。今度の週末には、企画・運営に参加した富山県のイベント「ミライトーク！あなたのちがいが富山をおもしろくする！」が行われます。アレッセの職員であるブラジルルーツの清水さんも登壇します。彼女は、15年前にはアレッセの学習支援を受けていた子どもでしたが、今は支援をする側、支援活動自体を支える側として活躍してくれています。インドネシアの方と国際結婚し、高岡で子育てしながら活動してくれています。もし今週末お時間ある方は、まだ参加申し込み可能なようなので、ぜひ足をお運びいただければ幸いです。

このように、外国ルーツの子ども・若者たちが自らの力を発揮できるよう、彼らの力だけでなく地域の人々の意識もコツコツと耕してきたのですが・・・

去年から不穏な空気も漂っています。

・選挙、JICA ホームタウン、厳格化の流れ
「外国人」という記号が一人歩きして、多くの人が顔の見えない「外国人」という記号を攻撃しているように見えます。

そんな中、富山県では、新田知事主導で「多文化共生条例」を制定しようとするためのセクションが今年度新設されるなど積極的な動きが続いていたのですが、世論の逆風を受けて、スローダウンしている様子が伺えます。高岡市は、旧平米小の校舎活用の議論の流れで、新設される高岡市教育総合支援センターに外国人児童生徒支援の柱を立てるということは何年も前から市教委が言っていて、そのプランを粛々と進めているというような状況です。

アレッセとしてもこの事業設計に関わっていて、現在、初期支援教室で使用するテキストを作成したりしています。これは、来日したばかりの子たちのサバイバルの日本語をや文化適応を10週間で支援するというもので、この各学校に在籍する来日初期の外国ルーツの子どもたちが通ってくるという形になるのですが、異文化異言語の環境に投げ込まれる子どもたちのソフトランディングを促す体制を整えたという意味で評価はできるものの、その運用を慎重にしないと、ゲッター化してしまうという危険性も孕んでいるので、実際の運用においては



注意深く監視したり意見したりしていく必要があると思っています。

先ほど、排外的な世論があることについて触れましたが、その議論の中の一つに「外国人は日本の伝統文化を壊す」という主張があります。経済的な理由だけで外国人移民を受け入れたら、日本の良き伝統文化が破壊されてしまうんだ、と。私はその意見に賛成しません。



上の写真は戸出野神社秋季例大祭の幌武者行列の様子ですが、地域に住む外国人住民が神輿を担いでいて、むしろ伝統文化の担い手となっています。

また、右の写真は、今年度行われた県高校文化祭のローガンに、パキスタンルーツの高校生が考えたフレーズが最優秀賞として選ばれたことを報じる記事です。

このフレーズは「伝統と革新のハーモニー、青春は無敵大」というものだったのですが、「受け継がれてきた文化や努力を大切にしながら、私たちの世代らしい新しい視点や表現を加えることでさらに輝くものになる」という思いで彼女はこのフレーズを考えたそうです。外国ルーツの若者が「伝統」を否定するのではなく、それをさらに発展させようとしている若者たちが育っていることに私は感動しましたし、富山の・高岡の未来の希望を感じています。彼女が言う「伝統と革新のハーモニー」を生み出すために、アレッセの活動もさらに頑張っていかなければと思いを新たにしています。



今年は、学習支援教室の「居場所」としての機能を高めるために、子ども・若者たちの母語や母文化に光を当てる活動を強化しています。彼らの多様な面をまるっと肯定し、お互いに認め合うことで、そこが安心できる居場所となり、彼らの力を伸ばすとともに、「自分の属する場所・地域のために何かしたい・貢献しよう」という思いにつながるからです。

その活動の一つとして最近始めたのが「多文化ぐるぐるメ」です。

日本語だけでなく彼らの母語も含めた包括的なことばの力を評価し生かしているという研修会の開催も3月に控えています。

これらの活動を今後も安定的に継続し、強化していけるよう、最後にお願ひがあります。

高岡北ロータリークラブ様には、毎年助成金をいただき、アレッセ運営の基盤を支えていただいているところですが、安定した運営ができるようになるためには、さらに多くの方々のご理解の輪を広げていく必要があると考え、認定NPO法人を目指しています。今は特例認定NPO法人として、3年間、ご寄付を平均100名以上いただけた場合に、正式に認定NPOとして認められることとなります。ご寄付をいただいた方々には税制控除などのメリットもありますので、高岡北ロータリーの皆様各個人または各企業として、賛助会員としてご登録いただけたら幸いです。ご検討のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

アレッセ高岡は、今後もふれずに「すべての人が輝く地域」を目指して頑張っていきます。

これからも応援よろしくお願ひいたします。

つなぐ まなぶ ささえあう

高岡初の認定NPO法人を目指して

2025年度 賛助会員募集

年間で3,000円のご寄附を100名以上

外国人ルーツの生徒の学習支援
多言語情報支援事業
市民性教育事業

賛助会員の方

一口3,000円
一口以上

税金控除の対象になります

会社・法人・企業の方

一口5,000円以上

ご寄附は損金扱いとなり
税制面の優遇措置を受けられます

アレッセ高岡の活動にご支援ください

01 直接事務所に持参
電話、メールで連絡後
事務所で会員登録

**ご支援
何卒お願ひ
いたします**

02 振込希望の方
HPから登録ください

ゆうちょ銀行からゆうちょ銀行へ
下記までお振込ください。
記号: 13290
番号: 19325071
振込手数料はご負担ください

賛助会員登録はこちら

他行からゆうちょ銀行へ
下記までお振込ください。
店番: 三三八 店舗: 328
普通
番号: 1932507
振込手数料はご負担ください